

01 移住・定住促進

基本情報



【出身地】
埼玉県上尾市
【転出元】
東京都新宿区
【前職】
大学講師
【活動時期】
R6.9～現在

協力隊に応募したきっかけ

知人の紹介で日高町日高地域を訪れ、移住体験や自然体験、地域の皆さんとの交流を通じて、日高地域の魅力を感じることができました。また、日高地域の現状や課題、資源や可能性についても話を聞き、興味を持ちました。特に今後増加が見込まれる外国人旅行者の受け入れが課題になっていると聞き、私が東京で運営している民泊の経験がここでも活かせると感じていました。地域の皆さんと協力しながら、外国人旅行者が滞在できる、地域の交流拠点としての宿泊施設を開設したいと考えています。

今後の抱負・任期後の目標

当面の目標として、1年以内に外国人旅行者が滞在可能な宿泊施設をオープンさせたいと考えています。また3年以内に複数の宿泊施設を開設し、運営を軌道に乗せたいと思います。開設および運営にあたっては、地域内の観光事業者の皆さんと協力して、ゲストに様々な体験を提供することで、地域のファンになってもらい、口コミを通じてより多くのゲストが地域を訪れる、そんな宿泊施設の実現を目指します。

活動内容

●空き物件情報の収集

地域内で活用されていない空き物件の情報を収集し、宿泊施設や賃貸物件として活用可能か検討します。情報収集にあたっては地域住民の皆さんや地域内の事業者とのコミュニケーションを積極的に行います。



●宿泊施設の開設

地域の事業者と連携して、外国人観光客が滞在可能な宿泊施設の開設および運営を行います。開設にあたっては、資金の調達や物件の取得、修繕、屋内外設備の設置、消防署・保健所への許認可申請、規約の作成、ウェブサイトの開設、予約サイトへの登録など様々な工程・手続きが必要です。



●SNSによる情報発信

宿泊施設の情報のみならず、地域内の観光スポットや飲食店、体験できるアクティビティなど、訪問者に有用な情報を取材し、SNSによる発信を行います。

SNSの発信においては、北海道旅行に関心がある外国人観光客にリーチできるよう、その手法についても情報収集を行います。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) aandh0309@gmail.com
(電話番号(職場)) 01457-6-2008

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

現在準備中

基本情報



【年齢】
30歳
【出身地】
兵庫県明石市
【転出元】
兵庫県神戸市
【前職】
株式会社フェリシモ
【活動時期】
R5.5~R8.4
(2年目)

協力隊に応募したきっかけ

秋田市にある秋田公立美術大学へ進学し、卒業後はそのまま秋田市内のテレビ局に就職したことで7年間秋田市で暮らした経験がある。コロナ禍で都会での生活との差があまりないことに気づきもう一度秋田市に住んでみるのもいいと感じた。ある程度の土地勘や事前の知識もあり、会社員ではない働き方をしてステップアップのきっかけにもしたいと思い応募。

今後の抱負・任期後の目標

協力隊になって半分、折り返し地点に来ました。この1年半でたくさんの方と出会い、イベント運営や情報発信など活動範囲を広げてきました。3年目は最後の年なので引き続き情報発信や地域行事を盛り上げる活動をしつつ、退任後の起業の準備をします。また、秋田県や秋田市特有のものイラストをオープンデータとして広く市民が利用できるようなイラストの作成、発信を予定しています。卒業後は秋田市内でクリエイターとして活動していく予定です。

活動内容

●移住者相談ツアー

移住を考えている方へオーダーメイドでツアーをプランニングして案内をする。幼稚園や小学校、暮らしやすいエリア、素敵なお店などお客様が移住において気になっていることや希望をヒアリングし、アポを取って組み立てる。移住者としてどれだけ秋田市での暮らしをイメージできるかがポイント。



●SNS発信やデザイン業務

強みであるSNS発信とデザインを生かしてInstagramを主なベースとして活動の発信をしている。市役所主催のイベントなどの告知もチラシや、リーフレット動画などを作る。今年度になってから動画の本数も増えた。地元の人も県外の人でも両方楽しめるかを大事にして制作活動をしている。



●ラジオコメンテーター

ABSラジオ番組「協力隊のシン・チカラジオ」のコメンテーターを務める。秋田県内の協力隊をゲストに、どんな活動をしているのか、今後の目標、他愛もない雑談をする番組。昨年から1年間継続しており、今までに24回の放送に出演し、多くの協力隊との繋がりに伝えることができています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) 04kanata10@gmail.com
(電話番号(個人)) 080-4242-7018

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://lit.link/kanatananoka>



KANATA_AKITA

基本情報



【年 齢】
60歳
【出身地】
東京都調布市
【転出元】
東京都府中市
【前 職】
コンビニ大手に34年間
流通ITコンサルタント
【活動時期】
R6.4～現職

協力隊に応募したきっかけ

R6年3月で60歳になり、雇用延長のお誘いは有ったのですが、もう満員電車には乗りたくない、この機会にスロークライフに移りました。もともとこのタイミングは狙っていません、R5年8月に某島で島暮らし体験のお世話になり、そこで協力隊の活動を知りました。戻って調べると八丈町で募集していたのでともかく応募したところ、採用のご縁を頂けた次第です。結果オーライの着任と移住になっています。

今後の抱負・任期後の目標

東京からたった55分の南国では有るんですが、全国的な知名度が低いので、とにかく一度観光でも島へ来て頂く必要があります。

町の目的である「定住者増」に向けて「知って貰う」と言う観点で特に観光と両輪で、島へのインビテーションを進めていきます。

任期中に何かしらのレガシーを遺したいと日々考え続けていますが、まずはどこかのタイミングから「人口減を横這いにする」ですね。

活動内容

●移住希望者の勧誘

移住・定住ガイドブックを刷新して、9月都内で行われた移住定住フェアから活動を本格化しました。ガイドブック作成に当たっては町内の複数の移住者に話を聴いて島のアドバンテージを「子育て∞」と定め、初めてピンポイントのターゲット層に訴求してみました。島暮らしの大変さも載せています。



●住まい不足の解消に向けて

毎年100人近い人口減は少子高齢と空き家増を加速させます。すべての賃貸空き物件が町の不動産屋さんの媒介に乗るわけでも無いようで、本土から八丈の住まい探しは苦労します。少しでも役に立てばと自分のブログでアドバイスも始めています。



●島の魅力情報を島外へ発信

島内のSNSはXがポピュラーですがなかなか島外の、八丈島に興味のある方へ届きにくくなっています。そこで町の産業・観光振興をビジュアルに取り上げる活動を始めました。9月に広報担当の隊員が増えたので八盛隊（はちもりたい）チームで協力して行きます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（職場））ha130@town.hachijo.tokyo.jp

（電話番号（職場））04996-2-1120

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（八丈町地域おこし隊（八盛隊）Instagram）



基本情報



【年 齢】
64歳
【出身地】
新潟県新発田市
【転出元】
東京都八王子市
【前 職】
会社経営
【活動時期】
R6.8～
(1年目)

協力隊に応募したきっかけ

新潟県新発田市で生まれ育ち18歳で進学のため東京に生まれました。当時は東京はとても自由で魅力でした。仕事もたくさんありサラリーマンを経て30歳で住宅リフォーム会社を起業しました。年に1～2回は帰郷していたので年を取るにつれて新潟（地域）の魅力にひかれていきました。地域の住まい方にとっても興味を持ちました。東京は土地代が高いため高額なローンを組んで狭い家に住み通勤もきつくつらそうな人をたくさん見てきました。地域の人々は逆に幸せそうに見えました。地域住まいを発信し空き家活用などで自分の経験や知識が活かせるのではないかと考えたのがきっかけです。

今後の抱負・任期後の目標

空き家の調査掘り起こしや利活用などで経験や知識を生かし少しでも地域に貢献できればと思っています。
任期後は住まいのリフォームや建物管理関連企業の支援や起業を目指しています。

活動内容

●空き家の調査と掘り起こし

空き家の調査と空き家バンクの活用促進を図っています。

空き家は状態の良い物件、今では建てることのできない古民家もたくさんあり、利活用できるよう活動しています。



●ワーキングホリデーや空き家見学時に市内を案内

妙高市の魅力はお米とお酒。ワーキングホリデーや空き家見学などで妙高市を訪れた方に、有名な酒蔵など地域の魅力もしっかりアピール。妙高市を好きになってもらうのも大事な仕事のひとつです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) chiikikyosei@city.myoko.niigata.jp
(電話番号(職場)) 0255-74-0064
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
facebook: <https://ja-jp.facebook.com/tiikinokosi>
Instagram:
https://www.instagram.com/myoko_chiikiokoshi/?utm_medium=copy_link

基本情報



【年 齢】
26歳
【出身地】
東京都足立区
【転出元】
東京都足立区
【現職】
株式会社SpAcE
代表取締役
【活動時期】
R5.7月～

協力隊に応募したきっかけ

新潟市地域おこし協力隊員に応募した原点は、私が初めて新潟へ訪れた時に感じたことでした。新潟市は、人と自然が調和しており、食文化にも恵まれ、さらに日本酒の酒蔵さんも多いことから、十分に都内からの関係人口を増やせるコンテンツはあるのに、中々増やせていないという現状がとても勿体無いと感じました。今後移住者や、テレワーカーの方達にとって、魅力的で有力な候補地だということを、より一層多くの人たちに伝えていきたい！と想いもあり応募させていただきました。

今後の抱負・任期後の目標

私は、東京でも活動拠点（丸の内・日本橋兜町）を持っているので、新潟市へのより多くの移住者や関係人口を増やすためのアクションとして新潟市と東京を繋ぐ役目を果たし、人と人の出会いによって更に盛り上がる新潟市を作っていきます。また、任期後は新潟市へ旅をする人や通う人を「風」。地元の方々や、その地に根付こうとする移住者などを「土」と見立て、土地の歴史や背景を共に大切に、土壌を耕すように共に育む仲間によって重なっていく「風土」を未来へ繋いでいく。そんなまちづくり事業を法人で立ち上げるのが目標です。これからは楽しみです。

活動内容

●新潟市ワーケーションツアー

海や山など豊かな自然にあふれ、人のあたたかな新潟県新潟市。世界に誇る日本酒酒蔵や、歴史深い日本文化財、人情溢れる古町の街通りなど二拠点生活や移住をイメージしたり、ライフスタイルに触れられるツアーをしています。地域の人とその暮らしに触れることで、「ここで暮らしたい」がきっと見つかる旅になるはず！ぜひお気軽にご参加ください！



●移住者Podcast

新潟市地域おこし協力隊の小林がお送りする番組『小林、早く呑みたいってよ。』を定期的に収録し公開中。

この番組は、新潟市地域おこし協力隊の私、小林がパーソナリティとして、新潟市へ移住してきた方をゲストとしてお招きし、会話を通して、リスナーへ新潟市の魅力や、新潟市への移住もいいなあと感じてもらふ番組となっています。



●移住BAR

東京での活動拠点（丸の内・日本橋兜町）を中心に移住に興味がある・気になる方を対象に開催しています。新潟の地酒・日本酒を試飲していただきながら、私だけではなく参加していただいた方同士でも交流ができるようなBAR TIMEを創っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) rio.koba2017@gmail.com
(電話番号) 090-6703-4624

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(Instagram) https://www.instagram.com/rio_niigata_area/



基本情報



【年 齢】
25歳
【出身地】
東京都品川区
【転出元】
大阪府大阪市
【前 職】
関西大学生
【活動時期】
R5.11～R8.11

協力隊に応募したきっかけ

大学で、地域コミュニティの場である銭湯の持続可能性に関する研究をしていて、大野市の亀山湯で、まき割りや湯たきなど「弟子入り」と呼んでいる就業体験を行い、番頭のおんちゃんと一緒に汗を流した経験がありました。大学卒業後は、都心の大学院への進学や設計事務所への就職を考えていましたが、大野市に関わり続けたいとも思っていました。そんな時に、大野市が「関係人口創出コーディネーター」として地域おこし協力隊を募集していることを知り、応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

インターン企画について、今後は、夏・冬の定期開催に加え、地域の暮らしや課題に学生が主体的に関わる学びの場として、プログラムの質をさらに高めていきます。受入事業者の拡充や大学との連携強化を進め、地域との持続的な関係性を築くとともに、自走可能な運営体制の構築を目指します。都市部の学生が一つの地域に関わりつづけるという、地方と都市をつなぐ実践的なモデルとして成長させていきたいです。

活動内容

●都市部の大学生を対象にしたインターン企画の実施
冬の大野市には、雪かきなど、豪雪地帯ならではの生活習慣があります。地域で働きながら、まちづくりの現場や雪国の冬の暮らしを体験してもらいインターン企画を実施し、関東、関西から6名の大学生を受け入れました。一部の学生は、インターン後も大野市を訪問してくれています。



●銭湯を生かした関係人口の創出

県外、市外から大野市に関わり続ける人を増やすために、既存施設の活用や若者によるまちづくり活動の支援も行っています。市内の銭湯「亀山湯」を「まちをわかす拠点」として活用するために、付近の亀のつく飲食店とのコラボや、新たに休憩所を設置する社会実験も行いました。



●特技を生かして地域のお祭りに出店

大学時代のアルバイトでスパイスカレーの魅力にはまり、オリジナルカレーが作れるようになりました。最近では、スパイス好きな住民の方々と共に「奥越スパイス研究会」を立ち上げ、地域のイベントなどで、オリジナルカレーを提供しています。今後も、地域を盛り上げるため、少しずつ出店する機会を増やしていきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) takeshi3kawa01@gmail.com

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
Instagram: <https://www.instagram.com/onoyokomachistudio/reels/>
(所属する団体「横町編集部」で地元の情報を発信しています)

基本情報



【年 齢】
28歳
【出身地】
東京都墨田区
【転出元】
神奈川県藤沢市
【前 職】
他拠点居住サービス
【活動時期】
R4.4～R7.3（3年目）

協力隊に応募したきっかけ

塩尻には、着任前からプロボノで足を運ぶ機会があった。一見すると、どこにでもある普通の田舎という印象を受けたが、実際には、熱量高い個性豊かなプレイヤーがたくさん活動をしていることを知った。この町から「何か大きな“起こり”が生まれそうだな」というワクワク感と、その波に自分も当事者として関わりたいという想いが芽生えるようになった。また、本業（定額4.4万円で全国住み放題サービス）の事業と関係人口創出は、非常に結びつきが強いので、シナジー効果も生み出せるのではないかと可能性を感じ応募。

今後の抱負・任期後の目標

- ①関係人口創出の先行事例をどんどん作っていく！
- ②地域の課題と伸び代を見つけていく！
- ③自分ごと化できる問題や課題を発見する！

活動内容

●塩尻CxOLabプロジェクト

今期で3期目を迎える、地域課題解決実現に向けた関係人口オンラインコミュニティ「塩尻CxO Lab」の運営事務局を担当。CxOLab参加者が、どのような体験や思考を経ていくことで、塩尻市との愛着や、そこからさらに地域の課題を自分ごと化させ、プレイヤーに変換できるかを設計。



●「空き家」を活用した、関係人口創出プロジェクト

空き家再生の0→1プロセスって、色々な学びの要素が詰まっているのではないかと？地域に居場所を求めている方が自ら汗をかいて居場所づくりをするって、今までの関係人口創出施策と、一味違う体験や繋がりを生み出せるのではないかと？そんな仮説のもと、有志メンバー（ADDRESS会員、CxOLab参加者）と株式会社ADDRESS社を巻き込みながら、始動。



●IT技術を活用した自律分散型のコミュニティの立ち上げ

『塩尻CxOLab』から生まれる、人の変化や成長、事業やプロジェクトの推進という価値をさらに加速/拡大することを目的として、この活動を持続可能なかつ、自律的に運営する組織形態や仕組みづくりを行なっています。プロジェクトの立ち上げにはCxOLabの有志メンバーがファウンダーとして入り、NFTなど技術導入を検討しながら、構想設計を行なっています。

連絡先

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100028181419876>

基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
三重県松阪市
【転出元】
三重県松阪市
【前 職】
旅行カウンター
【活動時期】
R4.6～R7.5

協力隊に応募したきっかけ

もともと三重県が好きで、ドライブをしながら三重県の南部、東紀州エリアを何度か訪れていた時、九鬼町に出会い、景観に一目惚れしたことがきっかけで九鬼町だけではなく、尾鷲市や協力隊に興味を持ちました。何度か訪れ、たくさんの方々とお会いしていく中で、尾鷲市で活動している方々がみんな生き生きとしていたこと、東京など都会から学生たちもたくさん集まってきていて、そこに地域のお店や地元の方とのつながりもあり、人と人が自然に繋がっていく事にとても魅力を感じ、私も尾鷲市で協力隊として活動をしていきたいと思い応募いたしました。

今後の抱負・任期後の目標

空き家バンク業務を中心に活動している中で、日常的に尾鷲市民の方や、移住されたい方、どちらにも出会える特別な立場として、ただ単純に移住者を増やすことを目的とせず、“人”と人、“まち”と人を繋げていけるよう、移住だけに限らず何かしらの様々な関わりしるを作っていきたいなと思っています。

任期後は、引き続き毎週金曜日のラジオ体操を行い、現在住んでいる家を拠点に地域内の困り事と地域外の人の手を繋げる仕組みを作りたいと思っています。暮らすことで地域へ還元し、役割をすることで居場所となることを改めて実感できたこの経験を通して、このまちで暮らす理由そのものを体感してもらいながら伝えていきたいなと思っています。

活動内容

●空き家バンク

お家を手放されたい、貸し出されたい所有者様と、借りたい買いたい利用者様をご紹介するサービスとして運営しています。基本的には、登記簿の確認、現地にて写真撮影や図面の作成、HP掲載など一連のことを担っており、利用希望様が合った場合には物件へのご案内や町のご紹介などもしています。ご案内時には、特に所有者様が大切にしている思いや当時の暮らしをなるべくお伝えするように心がけております。

●移住体験住宅「みやか」運営

移住を検討している方が1～3ヶ月間利用できる施設として運用しており導入を始めてから7年が経過しました。合計で9組16名の方が移住または2拠点居住へと繋がっております。入居時には町内の方々へのご挨拶やまち歩きをしながら、様々な方のご紹介をし、毎週金曜日に行われるラジオ体操を始め、九鬼町内のコミュニティセンターでのイベントやお祭りにも積極的に参加を促しています。ただ空き家を探すためだけではなく地域との交流を深めて頂くことを目的としていることで、移住が決まらなかったとしても関係人口として地域との関わりを継続することへと繋がっております。

●移住者交流会実施

今年は「ひものde交流会」をサポートセンターにて開催。賀田町と古江町に移住された方がご参加くださいました。移住後に孤立せず定住へと繋がることを目的として、これからも定期的に移住者交流会を実施していきたいと思っております。

●移住フェア/相談会への出展、自主企画の移住相談会@東京開催

毎年行われる東京や名古屋、大阪での県主催の移住フェアや相談会に出展しています。令和6年度は9月にふるさと回帰フェアへ出展。14組の方がブースへとお越しくださり、内数組が尾鷲市に興味を示してくださいました。

また、自主企画として東京にて移住相談会を3回ほど開催。1組の移住へと繋げることができました。何度かお越しくださっている方との繋がりをこれからも細く長く丁寧に続けていきたいと思っております。

連絡先

■おわせ暮らしサポートセンターInstagram



@OWASEGURASHI

基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
広島県広島市
【転出元】
神奈川県秦野市
【前職】
(株)日産自動車
新車開発・車体設計
【活動時期】
R4.10～R7.9

協力隊に応募したきっかけ

子育てをきっかけに妻の実家のある京都府北部への移住を決意しました。
仕事を探す中で、せっかくだからその場所でしかできないこと、地域に関われること、知り合いが増えそうなことをやりたいと考えていたところ、移住相談をしていた京都移住コンシェルジュさんから紹介いただきました。
自治体の雰囲気が良かったことと、受け入れ業者のKOKINの活動に興味を持ったことも決め手の一つです。

今後の抱負・任期後の目標

舞鶴市を若者のエネルギー溢れるまちにしたいと考えており、活動しています。学生をはじめとした若い人が何か挑戦をしたいと思った時に相談やサポートができるような場所を作っていきたいです。また、研修の開催など、学びを通じた人との繋がり作りも今以上に広げていきたいと思えます。

活動内容

●合同新人研修：舞鶴同期会の企画運営、講師

2023年度から、舞鶴同期会という合同新人研修を企画運営しています。初年度から10社から20名程度参加いただいております。大変参加者からも事業者からも好評のプログラムになっています。若手の繋がりづくりはもちろん、最終発表として自社のことを新人が発表できるようにすることで、将来的に学校などで若い職員が講演できるようにすることも狙いです。



●学生のためのコミュニティスペース「KATALab.」

地元の高校の先生と共に、学生のためのコミュニティスペース「KATALab.」を2024年3月から自主運営で立ち上げました。いつか舞鶴に帰ってきたいという学生を増やすことがテーマです。10月までにのべ1,000人以上の学生が利用しており、地元企業とコラボしたイベントや商品開発なども行っています。経費は企業スポンサーからの寄付で賄っています。



●市内中学校高校の探究学習・自主企画イベントのサポート

舞鶴内の高校や中学校各校に対し、探究学習のサポートや進路講演などを行うなど関わりを持っています。中学生がチャレンジカフェを開くサポートなどを授業で行ったほか、高校生が学校の枠を超えて、高校生が地域で好きなことを発表するイベントや大型音楽FESの開催といった自主企画イベントのサポートも行っています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人)) shota.harada.0925@gmail.com
(電話番号(個人)) 080-3173-3332

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(X) https://twitter.com/Sho_Maizuru
(Instagram) <https://www.instagram.com/shota.harada.39/>

基本情報



【年 齢】
36歳
【出身地】
韓国清州市
【転出元】
大阪府吹田市
【前 職】
会社役員
【活動時期】
R6.9～

協力隊に応募したきっかけ

義理の両親たちが丹後地域出身で何回も与謝野町に訪れていました。僕は都会よりも田舎の自然が好きで、自然で出来るアクティビティ（サイクリング・スイミング・スノーボード）が大好きです。与謝野町に訪問した時に、豊かな自然に囲まれて海や山、美しい平野がある与謝野町に魅力を感じました。特に与謝野町の方々の優しさに惹かれて与謝野町へ移住したいと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

三か国語（日本語・韓国語・英語）ができますので、それを活用して皆さんが泊まれる宿屋を運営したいです。与謝野町や丹後地域は、豊かな自然に囲まれており、自然を活かした体験もできる場所なので、泊まる方達が丹後地域をしっかりと楽しめる場所を提供したいです。

活動内容

● SNSを活用した情報発信

韓国出身の移住者から見た与謝野町や丹後地域の魅力をYoutubeで発信しています。地域行事や観光地などを撮影し自身が感じた事をコメントしながら魅力を伝えられるように動画を作成しています。一週間に一回の動画投稿をしています。今後は外国人旅行者達に対して与謝野町を案内し、観光・体験の様子を撮影し発信していく予定です。



● 移住・定住促進活動

移住希望者を連れて与謝野町と丹後地域の魅力を紹介する地域案内をしています。また、案内と合わせて移住希望者が地域の方と交流できる機会をつくり、移住後の生活をイメージしやすくしています。



● 地域行事への参加・与謝野駅周辺活性化活動

地域の運動会や祭りなど色々な行事に参加し、地域の方と交流しながら日本文化を体験しています。また、与謝野駅周辺の活性化を目的に活動する地域団体と協力してイベントを実施し、駅の活性化に取り組んでいます。地域の方を対象とした韓国語講座も駅で開催し、多くの人で賑わう場所にするための活動を進めています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(個人or職場)) kakujinsoo@gmail.com

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
兵庫県神戸市
【転出元】
兵庫県神戸市
【前 職】
大学非常勤講師
一般社団法人代表理事
カメラマン
【活動時期】
R6.10～R8.9

協力隊に応募したきっかけ

スポーツは地域おこしの起爆剤となる。
そう大学2年生の時に確信し、スポーツの深さと広さを知るために大学院へと進学し、研究に明け暮れました。そこで得た知見を社会に還元するために起業しました。
スポーツを起爆剤として最大限に生かすためには、その受け皿である「移住・定住がスムーズに行える仕組み」が大切である考え、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

「ここに移住してきてよかった」「ずっとここに住み続けたい」と思ってもらえるよう、地域と密に連携し移住定住に向けたサポートを進めていきたいと思えます。

活動をしていく中で民間だからこそできる取り組みも出てくると思うので、任期後は町内での起業を目指しています。また、任期中に確立を目指す「移住・定住がスムーズに行える仕組み」を有効活用し、スポーツによる地域おこしにも注力したいです。

活動内容

● 移住定住に関する相談業務・未利用地、空き家等の情報発信

市川町に移住・定住をしたいと思ってもらえる人を増やすための取り組みを企画実施したり、移住・定住をワンストップで実施するための最適解を見つけ、市川町に合った方法の確立を目指します。
カメラマンの経験を活かし、未利用地・空き家を魅力的に伝えられるような情報発信を行います。

● SNSを活用したまちの魅力発信、PR動画作成

町外にいたら、イベント情報が手に入りにくい。それぞれのイベント主催者のサイトなどに情報を取りに行かないと詳細が分からない。などの声を参考させていただき、さまざまな団体様と連携し情報発信するプラットフォームを構築する予定です。
そこでは、町の花であるひまわりの開花状況や、名産品などの情報も発信する予定です。



● 交流体験事業の運営サポート

都市部在住の方が市川町へ、まずは遊びに、そして地域活動に参加していただけるような仕掛け作りをします。また、都市部の大学と連携し、大学生や大学周辺の小中学生が市川町ならではの体験ができるプロジェクトを進めております。

連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) kurasu.ichikawa@gmail.com
(電話番号(職場)) 070 - 3247 - 6671
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(インスタグラム) <https://www.instagram.com/kurasu.ichikawa/>



基本情報



【出身地】
鳥取県鳥取市
【転出元】
東京都練馬区
【前職】
アパレル会社
ヨガスタジオ
【活動時期】
R4.11～

協力隊に応募したきっかけ

大学進学で上京して以来、帰省するたびに故郷の良さに触れ、いずれは鳥取県にUターンしたいと考えていました。転職が訪れ、移住を決意。ヨガインストラクターとして活動しつつ、子育てに支障なく働けるところを探していたところ、「鳥取来楽暮」の移住コーディネーターにご紹介頂き、湯梨浜町の地域おこし協力隊に応募するに至りました。両親の実家が空き家になっていることや、移住相談にのっていただいたことで、空き家活用と移住支援に興味が湧きました。

今後の抱負・任期後の目標

2024年10月とっとり暮らしアドバイザーに就任しました。鳥取県に移住を考えている方に向けたツアーや相談会に参加し、サポートに尽力します。協力隊卒業後は、今行っているヨガ教室を軌道にのせることが目標です。2024年は、ヨガのインストラクターとして開催場所を拡大しました。普段と異なる場所に身を置いてヨガをする気持ち良さを実体験として感じているので、旅行で町内に来られた方向けの朝ヨガを、今後企画したいと考えています。

活動内容

●空き家利活用

写真は、2024年6月に開催した空き家利活用イベントのものです。空き家の所有者が認知機能の低下などの理由により、活用や処分に向けた手続きが難航するケースや、どうすればよいか困っている人が多いと聞きます。元気なうちに家族と話す、空き家利活用について相談するきっかけ作りに注力しています。毎月第4水曜日、中央公民館泊分館にて「空き家活用相談会」の開催もしています。



●移住支援

移住のきっかけは「一度訪れたことがある」ことが多いと耳にします。まず、来町してもらうきっかけをつくりたいと思い、2024年9月に「暮らすように体験する」をテーマに、ヨガやピラティスを用意した野外イベントを実施しました。町外からの参加者も多く、およそ200名の来場者で賑わいました。



●イベント企画

町の賑わいづくり、空き家利活用と移住支援の機運を高めるためイベントを随時計画しています。町民の皆様と交流しながら、町外への発信も行い、住みやすい町づくりのために貢献したいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) ymirai@yurihama.jp (電話番号) 0858-35-5313

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(ゆりはまフェローズ)

Facebook <https://m.facebook.com/100070449463097/>
Instagram @yurihama_fellows @tottoriakiko

基本情報



【年齢】
31歳
【出身地】
オランダ
ズーテルメール市
【転出元】
長崎県長崎市
【前職】
佐賀県庁 国際交流員
【活動時期】
R5.9～R8.8

協力隊に応募したきっかけ

長崎市に近い距離で、自然豊かで温かいコミュニティのある町で暮らしたいと思い、多良見町の大草という地域の穏やかな海、温かいコミュニティや楽しそうな暮らしぶりに惹かれました。

自分の住む場所や働く環境を整えつつ、今の多良見の資源を守りながら活かし、地域の活性化に貢献したいと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・協力隊の活動地域に、将来住む家を見つけること、または建てること。
- ・仕事をしながらも、家庭菜園、養蜂、釣りなどで自然とつながった暮らしをすること。
- ・地域コミュニティの一員として貢献し続けること。

活動内容

●農村の維持・活性化に向けた支援

人口減少が著しい多良見地域の農村のあらゆるサポートを行っています。みかん農家のお手伝いをしながら農業を知り、柑橘ソムリエの資格を得て多良見のみかんの魅力をより多くの人に伝えていきます。

また、地域と一緒に活動し、大草地区の耕作放棄地を農業体験などに活用しており、段々畑の石垣保全を目的とした体験型の活動も企画中です。



●地域のNPOと一緒にイベントの運営

従来マルシェが行われなくなり、イベントが少なくなってきた中で、暮らしの楽しさと魅力アップを図るため、地域の経営者と一緒に新たなイベントの企画を検討しています。



●大村湾の資源の再認識・楽しみ方を増やす企画

福山雅治さんの歌詞にもある「さざ波光る大村湾」。この大村湾は、二重閉鎖性海域であり、富栄養化などの問題を抱えてはいるが、穏やかな性質であるため、ペーロン、カヤック、SUPなどのマリンスポーツが初心者でも親しみやすい海です。これらの楽しさとともに、環境を守る必要性を再認識できるような企画に取り組んでいます。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
メールアドレス（職場） iju_teiju@city.isahaya.nagasaki.jp
電話番号（職場） 0957-22-1500

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（インスタ） <https://www.instagram.com/tarami.no.maarten/>

基本情報



【年齢】
25歳
【出身地】
埼玉県上尾市
【転出元】
埼玉県上尾市
【前職】
学生
【活動時期】
R5.4~R7.3

協力隊に応募したきっかけ

学生時代は地域づくりについて学びました。大学1年生次に参加した授業（研修）で初めて龍郷町に訪れました。初めて見る景色を前に、異国に来たような気持ちになったのを鮮明に覚えています。それから5~6年の間、奄美の島々に通うファンになりました。

その後、卒業後の進路に悩んでいた時に、まさしく自分の研究分野であった移住と空き家、関係人口をミッションに協力隊の募集が始まりました。この機を逃す手はないと思い、この素敵な町で自分に出来ることに挑戦しようと決意しました。

今後の抱負・任期後の目標

移住や空き家の業務、そして日々の生活を通して徐々に町や島に馴染めてきたような気がしています。

次のステップでは、奄美に興味関心があるファンの方にとっての“港”となり、島内外の方を巻き込んだ地域づくり活動を展開してみたいです。

活動内容

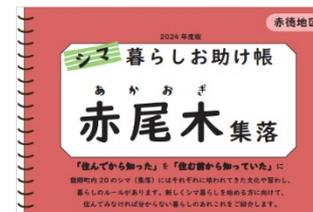
● たつごう移住ガイドセンター「住もうディ！」の運営

移住相談・空き家に関する相談窓口として、たつごう移住ガイドセンター「住もうディ！」を運営しています。年間で約120組の方から移住や住まい探しの相談を頂いています。龍郷町の気候、文化、生活環境、助成制度などについて、自身の移住体験談も交えてお伝えしています。



● シマ暮らしお助け帳の作製

「住んでから知った」を「住む前から知っていた」に。龍郷町には20集落あり、それぞれ異なる文化や習わしがあります。いわゆる「移住のミスマッチ」減らすため、集落運営費や年間行事など、住んでみなければ分からない暮らしのあれこれをご紹介しますリーフレットを作製中です！



● 空き家対策（空き家バンク運営・活用解体に向けた啓発活動）

空き家バンクには約30件の物件が登録されていますが、住宅の需要に対して供給が間に合っていない状況です。一方で町内には約200件の空き家があります。所有者への交渉だけでなく高齢者の集会や教育機関に出向き、活動報告やワークショップをする等、空き家になる前の対策も力を入れています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
（メールアドレス（個人or職場）） tatsugo.iju@gmail.com（職場）
（電話番号（個人or職場）） 090-7760-9491（職場）
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
たつごう移住ガイドセンター「住もうディ！」公式
（左から順に）HP, LINE, Instagram



基本情報



【年齢】
46歳
【出身地】
東京都新宿区
【転出元】
東京都新宿区
【前職】
派遣事務
【活動時期】
R2.5～現在
(5年目)

協力隊に応募したきっかけ

東京生れで田舎暮らしへの憧れと、与那国の自然の素晴らしさに一目ぼれし定住にむけ動き始めたタイミングで地域おこし協力隊の募集を知りました。色々な島と海外移住の経験をいかし、同じ様に与那国を好きで移り住みたい人へのサポートや空き家再生・古民家活用に携わる仕事に興味があり応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

- ・移住定住の中間支援組織の立ち上げ
- ・交流拠点でマルシェ等のイベント開催
- ・特産品開発や佐世保バーガー的な地域おこしグルメイベント
- ・遊休施設の利活用

島での暮らしがもっと楽しくなったり少し便利になったり、ワクワクするような事業に携わって、与那国での生活を更に満喫し、暮らしていきたいです。

活動内容

●空き家改修DIYワークショップを開催、交流拠点として活用

体験型DIYワークショップを開催し空き家を改修。交流拠点を整備。移住者・地域の人で行うことで、愛着を持ち気軽に立ち寄れるコーワーキングスペースや移住相談窓口・地域のハブとして利活用を目指しています。



●国有財産を移住促進住宅・移住体験施設として活用

使用されていない宿舎を改修し、移住促進住宅・移住体験施設として活用。旅行とは違い実際に暮らすイメージを膨らませられる移住体験ツアーのプログラムを目指しています。



●空地を活用し交流シェア畑を整備・収穫祭を開催

民間の補助金を活用し、シェア畑を整備。移住者や移住を検討している方が畑仕事や収穫祭を通じて地域の人と楽しく交流し、与那国の暮らしや文化への理解を深めミスマッチの少ない移住定住の促進を目指しています。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス) iju.yonaguni@gmail.com (電話番号) 0980-87-3577
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
(移住サイト) <https://www.yonaguni-ijyu.jp/> (インスタ) yonaguni_iju